

1280

第一四〇號

保存期限
決裁指定
局長委任
決行指定

大臣		件名		受領	番
次官		工場調査ニ関スル件		昭和三十九年三月十二日	第六〇七號
政務次官	次官			昭和三十九年三月十二日	第六〇七號
主務局長	高級副官			昭和三十九年三月十二日	第六〇七號
主務課長	主務副官			昭和三十九年三月十二日	第六〇七號
主務課員	主務副官			昭和三十九年三月十二日	第六〇七號
	書記官			昭和三十九年三月十二日	第六〇七號
	審察記者			昭和三十九年三月十二日	第六〇七號
局長	局長			昭和三十九年三月十二日	第六〇七號
局長	局長			昭和三十九年三月十二日	第六〇七號
局長	局長			昭和三十九年三月十二日	第六〇七號
局長	局長			昭和三十九年三月十二日	第六〇七號

政務次官 同付 決裁(前)連帶 衣糧

機動員

決行(決裁)後 同課(課)名

戰備課

陸軍

陸軍省

副官ヨリ

江戸川製薬所主江戸川吉之助宛

(東京市王子区
浮間町六三)

貴工場ニ於ケル活性炭生産調査ニ関シ別紙
調査票ニ秘密保持上ノ制限ヲ顧慮スルコ
トナク夫々所要事項記入ノ上二月二十五日迄
ニ提出相成度依命通牒ス

陸密第二四號

昭和三年二月十三日

陸



活性炭生産調査票

調査票番号	工場名	所在地	昭和
	調査事項 \ 調査品目	造粒炭	破砕炭
生産額	昭和九年	〃	〃
	昭和十年	〃	〃
年	現存設備=依ル全能力 (全能力發揮=要スル 準備完成日数)	(日)	(日)
生	計畫設備=依ル全能力 (計畫設備完成期日)	(年月日)	(年月日)
産	作業日数及作業時間 一年 _____ 日、一日 _____ 時間		
能	上記全能力ハ各調査品目ノ夫々ノミヲ生産スルモノシテ一々年ノ生産能力ヲ算定記載セラル度		
力	尚造粒炭及破砕炭ヲ生産スル工場=於テハ造粒炭ノ生産=全カラ注キタル餘カヲ以テスル破砕炭生産能力ヲ算出下欄=記載セラル度		
	造粒炭全能力生産ノ餘力=依ル	現存設備=依ル能力	〃
	破砕炭生産能力	計畫設備=依ル能力	〃
記載注意			
1. 現存設備=依ル全能力ハ現存スル破砕機、成形機、附活炉等ヲ綜合シタル全生産能力ヲ算出記載セラル度			
2. 計畫設備=依ル全能力ハ増産計畫アル場合其ノ計畫設備=付算出記載セラル度			

0873

0874

加

工場調査之関スル件回答
 昭和拾貳年貳月拾參日附陸機密第ニ四號ヲ以テ調製方
 御照會相成候旨題ノ件別紙ノ通ク秘密保持上ノ制限ヲ
 顧慮スルニ付夫々記入上此段及提出候也

別紙
 16

陸軍省副官寺倉正三殿



軍事機密

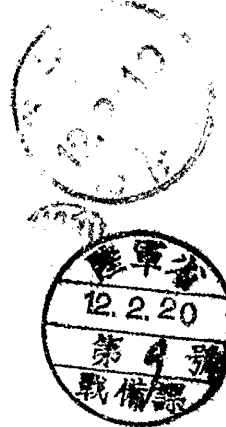
昭和拾貳年貳月拾八日

機密 六七陸共一

東京市王子區浮間町一六三一番地

江戸川製薬所

江戸川吉之助





三菱重工業株式會社
長崎造船所

長崎市長の御印



附屬書類壹括
庶第 二〇三 號

親展

昭和十二年 二月十六日

陸軍大臣 杉山 元殿

拜啓左記ノ通り爰許拜送仕候間御查收被下度此段
御案内申上候 敬具

三菱重工業株式會社社長崎造船所

記

工場調査票	第四號	壹通	附屬	壹部
同	第五號	壹通	同	壹通
同	第六號	壹通	同	四部
同	第七號	壹通	同	壹部

追而右ハ昭和十年十一月十五日附兵本檢乙第二三五號陸軍兵器本廠書信御申越ノモノニ有之候間御高承賜リ度、第一號乙乃至第三號乙調査票ハ去ル十二日附庶第一七五號弊信ヲ以テ送付濟ニ付既ニ御查收ノ御事ト存候 又拜

別表
八當課
二月廿日
戰備課

陸軍部
12.2.20
第九號
戰備課

9480



東計機七ノ第一〇號

検査 六七三

工場調査票提出ノ件

昭和十二年三月一日

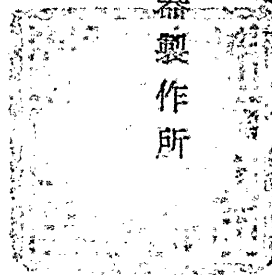
陸軍省

御中

資源調査令ニヨル工場調査票別紙ノ通り及提出候也

別紙一部添

株式會社 東京計器製作所



東京市番田區新宿町八百六十番地
株式會社 東京計器製作所



2280



陸軍工場監督官經由

陸軍工場監督官

昭和十二年三月十五日

北海道室蘭市茶津町四番地

株式會社日本製鋼所室蘭工場

工場長

打越光保

陸軍大臣 杉山 元 殿

工場調査票送附ノ件

資源調査法第一條ノ規定ニ依リ商工大臣ニ提出スベキ昭和十一年
度工場調査票中二月末日迄ニ提出ノ分ニシテ昭和十年十月三十日
附陸密第八一七號陸軍省副官通牒ニヨリ記載内容ニ制限ヲ加ヘザ
ル工場調査票左記ノ通り乍延引茲許同封御送附申上候

記

室庶務第二一五號

3月20日
公堂課
別紙
備課

草

室第210號 16 B5

